

指定校番号	29024	学級活動	児童会	クラブ活動	学校行事	○	小学校用
-------	-------	------	-----	-------	------	---	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立瀬戸田小学校	校長	土居 誠子	生徒指導主事	檜原 浩生
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『一流めざせ そうじのプロ!』

取組のねらい『キーワード 自らが気づいて活動することのできる清掃活動』

- 児童が課題意識をもち、清掃活動の目標や実施方法を考えることにより、生徒指導上の課題発見・課題解決能力の向上を図ると同時に、児童の自主性を高める。
- 日常の「気づきそうじ」の取組と行事に位置づけた地域清掃活動をリンクさせ、清掃の意義を理解するとともに自分達の地域を大切にしていこうとする心情を育てる。

身に付させたい資質・能力

- ・自分の考えをもち、自分を表現する力【自己決定】
- ・目標に向かって、チャレンジし続ける力【アイデンティティ】

取組の具体的内容『キーワード 「気づく」掃除ができる児童の育成を目指して』

- 「気づき」掃除
 - ・毎日の掃除時間を5分間延長し、最後の5分間を「気づきそうじ」として、もともとの掃除場所に加えて、掃除する。
 - ・どの場所をどう掃除するかは、各学級で考え話し合い、決定する。
 - ・どんなものを使って、どのようにしていくかは児童主体で考え、担任がアドバイスする。
 - ・時間に合わせて放送を入れ、「気づきそうじ」を意識させる。
 - ・意欲的に活動できているところは、放送で評価する。
 - ・児童は自分達の活動を、「生活点検カード」で評価する。



○学校行事の中で

①春の遠足（5月）

- ・1年と6年，2年と5年，3年と4年がペアを組み，それぞれの目的地に行く。
- ・2年5年と3年4年は，地域の海岸で過ごし，活動の中でビーチクリーンを行う。
- ・ゲストティーチャーを招き，地域の自然や生物への関心を高めたり，環境を守ることの大切さについて理解を深めたりする。

②環境整備作業（8月）

③地域清掃・貢献活動（11月）

④その他として

- ・その他にも，6月には子ども会主体での参加ではあったが，地域のサンセットビーチを清掃し，その様子を道徳授業の学習に生かした。（サテライト学習・道徳5年）また1月には中学校とも連携して，5学年が地域の潮音山クリーニング活動に参加した。

取組の課題・創意工夫『キーワード 評価と自治的活動』

○分かりやすい評価

- ・4月以降取り組んだ「気づきそうじ」の児童の自己評価は少しずつ数値を上げ、7月には85%を示した。しかし、夏の学校評価委員会において、児童がどれだけ「気づき」を意識できているのかという指摘を受け、見直すこととした。

①通常の掃除以外にどんなところが掃除できるか。

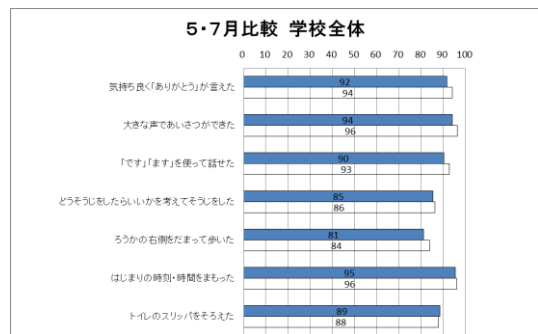
②どんな道具だとどうまく掃除できるか。

③どの期間にはどんな掃除をすればよいのか。

- ・自分達がやるべきことを分かりやすくした上で、評価できるようにした。
- ・学年によっては、児童が主体的に活動できるように、話し合いの場等を設定した。

○主体的な児童会活動

- ・「気づきそうじ」と地域清掃活動が効果的に組み合わせられていく中で、児童会や委員会を中心とした取組がまだ十分とは言えない。各学級での活動と児童会や委員会の活動が連動できるように、動きを仕組むことが必要である。



取組の成果（効果）『キーワード 変わりゆく児童』

- ・生活点検カードの数値は、1月時点で93%と少しずつでも上昇している。数値だけではなく、通常掃除から「気づき」に切り替わる時の動きもスムーズとなり、意欲的に活動できている児童が確実に増えてきている。
- ・気づいて行動することが身につくことで、掃除以外の場面でも徐々にではあるが、主体的に活動できるようになった児童の姿が報告されるようになってきた。

今後の展開『キーワード 家庭・地域との更なる連携』

- 児童会・委員会と連携し、縦割り活動等、児童が主体的に活動する内容を計画できるように支援していく。
- 生活習慣・基礎学力の定着に向けて家庭と連携する。その上で、自信をもって自ら伸びようとする児童の育成を目指して、更なる協力体制の構築に努める。
- 日常、地域から受けている支援に対して再確認し、自分達が地域にできることについて整理したものを、学習計画に位置づけていく。

他校へのアドバイス『キーワード 学校主導の限界』

- 学校や教職員だけがいくら一生懸命に活動しても、本当の意味で児童を変えることはできない。児童が、自ら変わらなければいけないという自覚をもって動いて初めて一步の歩みとなる。慌ただしい毎日の中で、つい結果に目を奪われて、大切なことを見逃してしまうことがよくある。勇気をもって立ち止まり、静かに児童の心の声に耳を澄ませる時間をとることの大切さを忘れないようにしていきたい。